

旭労災病院ニュース

発行所：旭労災病院

〒488-8885

尾張国中平字町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

病院情報誌 第88号 平成25年3月1日発行

新型出生前診断

産婦人科部長 宮田 敬三



出生前診断とは、胎児異常の有無の判定を目的として行われる検査のことです。広義では出産までに行われる検査すべてで、狭義では胎児異常の有無が疑われるあるいは異常の確率が高いと想定される場合に行われる検査を指します。

現在一般的に行われている狭義の出生前診断には、母体血清マーカーテスト(トリプルマーカーテスト・クアトロテスト)や羊水検査や絨毛検査などがあります。母体血清マーカーテストは妊娠14～18週に行われ、胎児に影響はなく母体への負担も軽いという利点がある一方、羊水検査に比べ正確性に劣ります。羊水検査は妊娠15～18週に採取した羊水に含まれる胎児の細胞の染色体を検査して、ダウン症などを検出します。正確な診断が得られますが、流産率が0.5%と高いことが難点です。絨毛検査は妊娠10～11週に行われます。診断は正確ですが、合併症も多く最近ではあまり行われません。

2011年10月米国シーケノム社が新型の出生前診断法を開発しました。妊娠10週頃から検査できます。母体血の血漿成分は、胎盤の絨毛細胞由来の胎児の染色体を含んでいます。染色体(13番、18番、21番)の数的異常を解析し、ダウン症の診断に結び付ける仕組みです。かなり確度は高く99.1%ですが、あくまでも確定診断ではなく、スクリーニング検査と考えられます。つまり陽性と判定されれば、羊水検査で確定診断をする必要があります。世界的には妊婦からの検査に対する圧倒的な要望があるため、高額な検査にもかかわらず広く普及しつつあるのが現状です。

日本では2012年10月から認定施設にて検査受託が開始されました。それに呼応するように、日本産婦人科学会は12月に「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査に関する指針(案)」を出しました。以下はそのまとめです。

- ・十分なカウンセリングができる施設で限定的に行われるべき
- ・産婦人科専門医、小児科専門医の在籍などが実施施設の条件
- ・対象は35歳以上、染色体異常の子供妊娠歴などに限る
- ・医師や検査会社が積極的に周知したり、安易に勧めない
- ・実施施設を認定登録する第三者機関制度の確立が望ましい

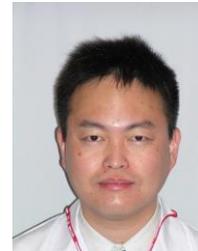
残念ながらこの指針は宗教の方面に、倫理の方面に、そして科学の方面に論を尽くしているとはとても思えません。新たな検査法が命の選別につながったり、あるいは最先端の科学を活かしきれないなどの懸念があり、各方面からの活発な議論が必要かと思えます。

「森羅特装シュラバスター」と糖尿病啓蒙活動を行っています

皆さまは尾張旭市のローカルヒーロー「森羅特装シュラバスター」をご存知でしょうか？2009年からアクションショーを中心に活動している、一見仮面ライダー風のヒーローです。最近ではご当地モノが流行しておりまして、ゆるキャラ(尾張旭市なら“あさびー”)やローカルヒーローが各地で誕生しています。シュラバスターもその一つで、有志によるボランティアで運営されています。

私は2年前、この旭労災病院ニュースで“小児糖尿病外来を始めます”という題で、小児・若年発症の2型糖尿病の治療の重要性を書きました。そして2011年4月から小児糖尿病外来を開いています。ほとんど受診がない状態です。若い世代は医療・健康情報への関心は低く、彼らに向けて糖尿病の情報発信が必要と感じていました。しかし、そもそも関心のない人たちにどうやって病気のことを知ってもらうのか？いいアイデアが浮かびませんでした。

2012年の春、尾張旭市のさくらまつりでシュラバスターショーを見ました。子供たちが大声で声援を送っていて、盛り上がっていました。そこで“シュラバスターと組んで小児糖尿病の啓蒙活動をしたい”とひらめきました。メールで連絡をとり、いろいろと打ち合わせて、8月には私自身も“さすらいの糖尿病医ドクターDM”という役をもらいショーに出演することになりました。悪の組織クライムギルドの送り込んだ砂糖怪人が地域住民を糖尿病にしようとする企みを、シュラバスターとともに阻止するというシナリオです。あくまでもエンターテインメントであり、正確な知識の提供ではありません。しかし市民公開講座などで糖尿病をテーマに講演があっても、関心のない普通の市民は足を運ばないでしょう。お祭り会場で子供の喜ぶヒーローショーで啓蒙活動を行うことに意味があると思います。市民の健康増進はまず病気の存在を知ってもらうところから始まると信じて、この活動を続けていくつもりです。



糖尿病内分泌内科部長 小川 浩平

